

早産児神経発達学会 オンラインセミナー
シリーズI『脳の可塑性を促す理学療法の実践と家族支援』その2

脳も支援もスペクトラムに；脳の可塑性を意識したNICU卒業早期からの支援とは？
NICU退院後も切れ目のない連続した理学療法の早期介入と家族支援—多職種連携の実践

座長：荒井 洋（ボバース記念病院 院長 / 早産児神経発達学会 理事）

講演1 NICU卒業後の一歩を支える：医師・療法士・多職種連携による早期介入

岡橋 彩

日本大学医学部小児科学系小児科学分野 准教授 / 早産児神経発達学会 理事

出口 貴美子

キッズ&ファミリークリニック 出口小児科医院 院長 / 早産児神経発達学会 代表理事

講演2 症例紹介：NICU卒業児における理学療法セッション・評価・支援のはじまり

福本 圭・兵頭 冴香・山口 輝多

キッズ&ファミリークリニック出口小児科医院 理学療法士

講演3 症例をもとにした理学療法の詳細解析と実践知の共有

永島 智里

キョボバースセンター 代表 / ボバース記念病院 教育主幹 / 小児ボバース国際インストラクター

※プログラムの内容には若干の変更が生じる場合がございます。

日程 2025.8.28木

時間 19：00～21：00

対象 医療、福祉、教育に関わる方

場所 オンラインセミナー

参加費 2,000円

イベント管理サービスPeatixを利用し、
配信にはZoomを用いるオンラインセミナー
(期間限定のオンデマンド配信あり)

NICU卒業後の「今」が未来をつくる
～早期介入と多職種連携が子どもと家族を支える～

在胎28週で生まれNICUを卒業した1人の赤ちゃんが、修正4ヶ月になって、当院の外来に来てくれました。
寝返りもまだできない時期から始まった医師と理学療法士の連携による専門的介入と、家族への丁寧な支援がその後どうなるか・・・
たとえ医学的に十分な説明を受けても、ご家族がそれを理解し、納得して必要な介入を実践できるようになるには長い道のりがあります。多職種が統一した見解を持ちながらそれぞれの場面でご家族に伝え、支えることではじめて望ましい育児につながると実感しています。
シリーズIでは、脳の可塑性を意識した理学療法と家族支援が主題です。

今回からはNICU退院後0歳の症例を通し、医師と理学療法の連携による早期介入と家族支援の例をご紹介します。

NICU退院後のフォローアップ外来で医師が早期リハビリ介入の必要性をどのように認識し、家族に伝え、療法士との連携を行うのか？（岡橋、出口）早期リハビリにおける評価と実践はどのようなものか？（福本、兵頭、山口）それはどのような理論や専門的視点に裏打ちされているのか？（永島）明日からの臨床にすぐに役立つ視点をお届けします！

このセミナーはシリーズで行いますが、単発参加でも十分に学べる内容や解説をを心がけております。ぜひご参加いただき、ライブでは一緒にディスカッションができることを楽しみにしております。復習として、オンデマンドでも何度もご覧いただけます。なお、レジュメの提供はありません。ご自分でまとめていただくことをお勧めします。

お申込み

タイムスケジュール・お申込みについては、右記QRコードからPeatixのイベントページをご確認ください。

申込締切 2025年8月28日(木) 19時まで

※コンビニ / ATM でのお支払いは、申込締切の1日前に締め切られます。



主催：早産児神経発達学会



epineuro2021@gmail.com



https://www.epineuro.net

